

水牛通信

VOL.6 NO.4
毎月1回・10日発行
定価200円

人はたがやす
水はたがやす
稲は音がなく育つ

ルポライターの孤独 鎌田慧 2

子供に合っていない学校 西山正啓 18

「スター」日記 坂本龍一 4

ブタ草七変化 竹内晶子 20

家族・友だち日々の糧 志沢小夜子 6

六十四歳になったら 無名閣士 22

料理がすべて 田川律 8

ぼくが作った本 平野甲賀 24

ボクが先生をしていた高校 糸取アヤ 10

わるいくせ 八巻美恵 26

たのしみがなくなった 高橋悠治 12

下手の横吹き笛日記 西沢幸彦 28

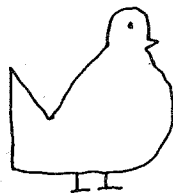
生活ノート 平野太呂 14

友だちと呑めば本になる 津野海太郎 30

子供たち 柳生まち子 16

横流しカット 柳生弦一郎

ルポライターの孤独



鎌田慧

2月16日 大牟田市野添住宅に松尾夫妻を訪問。夫の修さんは昨年、三井鉱山を停年。六三年、四五八名の仲間が殺された三川鉱炭塵爆発でCO(一酸化炭素)中毒患者になっていたから再就職できず。坑内労働の期間が短かったために厚生年金は六〇歳から。それまでは雀の涙の退職金を取りくずして生活するとか。退職しても、この社宅に居坐っていく、という。三井がやったことを思えば、当然である。

大牟田発十二時五十三分の西鉄特急特急料金(はなし)で、福岡市天神に出る。二時半の全日空で羽田着四時。五時に市ヶ谷の喫茶店で某紙記者と会う。六時半からエディタースクール。受講生八人。うち二人は、事務局員が用意したサクラ。

2月18日 清瀬池袋―日暮里―取手―水海道、そしてタクシーと乗りつぎ(三時間かかった)、入院中の友人を見舞う。スイズウ、タンノウ、モウチヨウを切り取る四時間の大手術から十日目。やつれ切つてウナっているかと思いきや、ロビーに女性患者たちを集めて熱弁をふるっていた。ヘンな奴だ。そこから新宿の朝日カルチャーへ。三時からの講義にすべり込みセーフ。諦めていたのに、間に合うから不思議だ。生徒三二人。学生から五六歳の主婦まで。

2月21日 池袋、高田馬場の喫茶店で編集者と会い、七時すぎに新宿の喫

茶店。戸田れい子、高橋悠治、津野海太郎の順で姿を現す。津野海太郎の案内で、魔窟のような台湾料理屋で老酒。支払いが津野。ゴールデン街を二軒まわつて高橋宅到着午前四時。

2月22日 一宿一飯の主人の子息がスケートで転倒との電話。救急病院は高橋家から歩いて二、三分。便利なところに住んでいるのである。

2月24日 時計屋のIさんと有楽町で会う。現代の退廃はどこにあるか、と彼は語りはじめ。テレビでみた野坂参三の眼鏡はべっ甲に金をあしらつたもので、五〇万円以上。おなじようなのをしていたのは、藤山愛一郎と元KDD社長板野某ぐらいたか。共産党の象徴と財閥の御曹子と横領男が、三大眼鏡とは、やはり退廃。

2月27日 二時半の日航機で福岡へ。日航は大キライのだが、この会社だけが福岡―札幌の直行便をもっている。料金は四万六千五百円。ところが、全

日空の東京経由便だと、五万二千六百円と六千円の割り高。それで主義を曲げて日航機を使用。ところが、あとでよく計算してみると、東京―福岡往復、東京―札幌往復の料金合計九万五千円と東京―福岡―札幌―東京の料金九万四千円では、九百円しか安くないことを発見。やはり主義は曲げない方がいい、との教訓をえた。

2月29日 一時半の日航機で福岡発。雪のため直行便は欠航。羽田空港内の食堂で短い原稿を一本書いて投函。そのまま札幌便にとび乗る。この日は札幌泊。

2月30日 十時三分の石勝線で夕張へ。閉山によって二千人がクビ。廃屋となった炭住はブルで倒されていた。顔馴染みの孫請の親方の話によれば、壊したアパートの押し入れから置き去りにされた遺骨が出てきたという。それまでは、夜になると廊下を歩く物音が聞え、「幽霊屋敷」とよばれていた。

お坊さんと呼んでお払いをしたとか。

3月2日 廃校になった小学校を改造した、ファミリースクール「ふれあい」に泊つた。一泊二千円。それでいて部屋は二八畳の広さ。一畳あたり七二円の格安。部屋のまん中に布団を敷く。朝七時半、黒板の上のスピーカーが突然どなりはじめ。「シートと枕カバーは外に出して下さい」。食堂は元職員室。風呂は元理科室である。

3月11日 朝まで完徹。大宮発十一時三分の新幹線で新潟へ。十六時四〇分発の東亜国内航空機で大阪へ。大阪から全日空に乗り継いで高松着十九時四五分。

3月12日 高松地裁で財田川判決傍聴。無罪。無罪は当然。判決批判を十三枚。支局から「朝日ジャーナル」へ電送。クタクタ。

3月13日 前日、三四年ぶりに釈放された元死刑囚、谷口繁義さんの実家(財田町)へむかう。どこへ行つても

記者団がすさまじかった。夕方、いくつかのセレモニーをようやく終えた谷口兄弟と祝盃。繁義さんの食欲はものすごく、バラザしのおにぎりを五つ、たてつづけに食べる。前夜は興奮状態で一睡もしていなかった、という繁義さんを二階にあげ、兄の勉さんと二時すぎまで酒。釈放されてきたら一緒に飲もうというのがここ数年の楽しみだった。元被告は、酒にもタバコにも興味を示さず健全である。

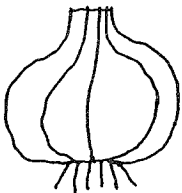
3月14日 朝、繁義さんの表情は和やかなものになっていた。朝食、昼食ともこたつて御馳走になる。一宿三飯の恩。故郷の山河がすっかり荒廃している、というのが、三四年ぶりの帰郷者の感想だった。それは人間の荒廃も示しているという。

俳人の元被告に、小生が即興の駄句を献呈。

しみじみとうどん味う春の雪
雪冤の感慨をうたつたものであります。

「スター」日記

坂本龍一



二月十五日(水) 十時半、起きる(起こされる)。昨日、講談社の富田氏に何年かかってもいいから小説を書けと言われる。十二時、音響ハウス8F、第一スタジオで「矢野顕子ソロ・アルバム」レコーディング。五時頃、スタジオに悠治さんからTEL有り。「水牛通信」に「スター日記」を書いてくれとのこと、ひき受ける。スタジオに写真家のヒロ伊藤氏来て、アッコの宣伝用写真を撮る。僕も被写体になる。八

時、目黒のル・ポワールで三宅榛名さん、小林道夫さんと鼎談。題はBACH。ワインを大分飲む。

二月十六日(木) 十時半、起きる。一時、音響ハウス、1スタ。「顕子ソロ」。キーボードのダビング、96%完成。八時終了、日本アカデミー賞の音楽部門にノミネートされているが発表式には行かず、マネージャーに行つて貰う。

二月十七日(金) 九時、起きる。十一時、調布大映撮影所。日本生命「YOU」のFILM撮り。ディレクトは栗上氏、スタイリスト小礎さん、メイク嶋田さん。午後になってA・Dの井上氏、コピーの糸井氏来る。雑談。撮影は順調に進んで六時半、終了。今日は又大雪になった。調布から高速を時速50kmでとばして原宿へ。七時半、ピーカープーで明日の撮影の為に髪を切る。十一時半、帰宅。家の前の雪かきをしていると、隣の下宿人二人がやって来て、サインを呉れと言う。あたまにき

だが、サインをした。他人のことを考える能力のない奴だ。

二月十八日(土) 九時半、起きる。十一時、調布大映撮影所。昨日の続きのCF撮影。大阪電通の人に頼まれ、色紙にサイン二十枚。八時、終了。九時、飯倉のアオイスタジオ。YMO映画「アロパガンダ」のサウンド・トラックのダビング。十二時半、終了。

二月十九日(日) 休み。
二月二十日(月) 十一時、起きる。講談社「イン・ポケット」のゲラ(ワープロ)にアカを入れて渡す。二時、音響ハウス3F、6スタ。「顕子ソロ」のリミックス。スタジオに赤木氏から原稿依頼のTEL。十時半、終了。

二月二十一日(火) 九時、起きる。十二時、音響ハウス7F、3スタ。竹内マリアのソロ・アルバムでキーボード・ダビング。二時、3Fの6スタで「顕子ソロ」のリミックス。テレコのトラブルで時間をくう。深夜三時、やっと

「素顔」一曲のリミックス終了。昨日から(正確には一昨日)二日がかりだ。

二月二十二日(水) 十一時、起きる。

一時、音響ハウス、6スタ。「顕子ソロ」二曲目のリミックス。十二時終了。

二月二十三日(木) 十一時、起きる。

一時、音響ハウス、6スタ。「顕子ソロ」リミックス。1Fの駐車場でファンが二人待っている。サインをする。六時半、ホテル・オークラに行き、テレビ朝日主催の「戦メリ」のパーティーに出席。挨拶、記念品授与等々。たけしに久しぶりに会う。八時半、音響ハウスに戻る。三時、終了。

二月二十四日(金) 十一時、五反田の東洋現像所試写室。「プロパガンダ」初号試写。一時半、音響ハウス7F、4スタ。「サントネージュ・ワイン」のナレーション録り。二時、6スタ「顕子ソロ」リミックス。一時、終了。

二月二十五日(土) 十二時、麻布十番の賢崇寺。祖母の三回忌。色紙に百枚

程サイン。親戚はファンより強引だ。

二月二十六日(日) 十二時、音響ハウス、6スタ。「顕子ソロ」リミックス。十二時、終了。

二月二十七日(月) 十二時、音響ハウス、2スタ。大貫妙子のアレンジ。十二時終了。霞町へ飲みに行く。知り合いのスタイリストに「芸能人」呼ばわりされる。

二月二十八日(火) 十二時、音響ハウス、2スタ。大貫妙子アレンジ。八時、1Fのエルで小学館の島本氏と打ち合せ。九時、エビス・スタジオへ。雑誌「フリー」のグラビア撮影。一時、終了。

二月二十九日(水) 十二時、音響ハウス、6スタ。「顕子ソロ」リミックス。

七時、「びあテン」授賞式の為、丸の内ピカデリーへ。壇上で座談会。九時音響へ戻る。朝五時、終了。

三月一日(木) 一時、音響ハウス、2スタ。「顕子ソロ」編集、曲順・曲間決め。六時、4スタで「YOU」のナ

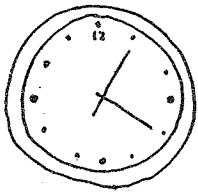
レーション録り。七時半、3スタで大貫妙子アレンジ。十二時、終了。

三月二日(金) 一時、五反田の東洋現像所、「プロパガンダ」初号再試写。

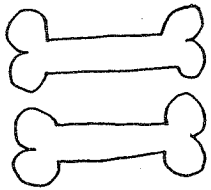
四時、市ヶ谷でオランダ「ビニール」誌用インタヴュー。

三月三日(土) 十二時、音響ハウス、2スタ。NHK番組用テーマ録音。七時、終了。

三月五日(月) 一時、音響ハウス、2スタ。企業プロモーション、ヴィデオ用サウンド・トラック録音。八時、終了。八時半、九段で冬樹社と打ち合せ。十時、終了。



家族・友だち日々 の糧



志沢小夜子

二月十六日 青林舎の友人である佐々木正明氏より、「ともかく必ず来て!!」と言われて、「下北・関根浜」の映画完成のための集まりに出かけた。職場から目と鼻の先にある学士会館。こう近いと残業の気分です仕事をやってしまつて、集まりに遅れてしまった。北村小夜子が見えた。空いていたとなりの席にすわり、全国教研の話などする。

大田区で中学の障害児学級を長くも

たはしやぎすぎ。遠慮がないという悪性格のために、すぐ自己嫌悪におちいるのだが、美恵さんに言わせると、「自分は自分なのだと思つてないからよ」彼女と知り合つて、私は本当に得をしている。

自己嫌悪からは次の日、立ち直つた。三月九日 渋谷の喫茶店「ブーケ」で、都立大の山住正巳さん、田川さん、悠治さんと十五日のコンサートの打合わせ。

何しろ、この日になつても中味が決まつていない恐ろしいコンサート。そり、そりりと智慧をしばつて、最初の出だしは暗っぽい。このにわか暗雲を何とか晴らさねばならぬ。そこへ、山住さんが、むかしの小学唱歌について話をする。「そう、そう、これだ。これにしたい」私の気持は上向き。アニーローリーの節で「才女」つてうたあつたんだつて!! 「へーえ」と悠治さんと私。天才ピアニストも知ら

っている北村さんは、静かに激しくエネルギーをはき出す人だ。去年の暮は、核のすて場になつていてというテニヤンへ行つてきた。

終つて、新宿へくり出す。終り頃佐々木氏がやつてきたので、話らしい話が出来ず、一緒に帰ることにした。

二月二十日 組合を休んで、病院へ行った帰り、池袋の西武デパートの前で高峻石さんに会う。ひさしぶりですね。

高さんが、去年荻窪病院へ入院、そのお見舞に行つてからだからずいぶんなる。

「僕は毎日、原稿用紙二〇枚書けるのよ」とデパートの前の喫茶店「耕路」で。

「今、在日朝鮮人の歴史を僕らのエピソードをまじえて書いているんだよ」とうれしそう。これから暮会所へ行くんだつて。もうずい分の年なのに、オールドボルシエビキの風格をたたえ

ないことあつたんかとうれしくなつた。ちなみに、才女とは紫式部と清少納言だつてサ。

結局これで、前半が、今教室で……後半がむかし教室で……となつた。

三月十二日 職場でプログラム作りをはじめていたら、急に笑いたくなつた。なぜかと申せば、「螢の光」の三番、四番というのを読んでいたのだ。

「ね、ね、螢の光に三番、四番あるの知つてたー。これ、ふるつてるのよねー」と私が両となりの席の渡辺さんと三浦さん（二人とも男）に読んでやった。三浦さん「そういえば、北区の教育長がこの三、四番、歌詞をつけてうたうよう指導したんだよね。すごいだろ」すごいねーと三人で感心した。ついでに、昭憲皇太后のつくつたという、「金剛石」というのも読んだ。するとまた三浦さんが、「森本真章つてさ、なにか四国に有名な石があるらしいんだけど、生徒に河原で石を拾わ

て、うしろ姿が若々しい。

二月二十一日 美恵さん宅で、女の集り。

一番はじめについた私、すっかりつまみ食いして、一通り終つた。そこへみんなが集つて来た。結局私が、ごちそうを一番食べたのだ。案の定、はしやぎすぎて具合が悪くなつた。（太りすぎて体調を崩しているのだ）佐々木さん、岡庭さん、大江さん、美恵さんごめんね。

三月六日 林光さんのコンサート。田川さん制作の「ボルフガングーモーツアルトの生涯」大石哲史さんてかわいのねー。林光さん二曲うたう。終つて、おつかれのところ、三月十五日の「国」について歌についてコンサートⅢの打合わせを林さん、田川さんと。

打合わせのあと、来ていた伊都子さんとみんなと飲みに行く。林光さんの前の席で、とりとめなく話をして、ま

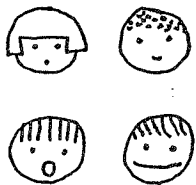
せて、磨かせて、就職先の会社へ記念に持たせたんだつて、きつともとはこの歌だよ」三人でまた感心して笑つた。「金剛石も、みがかずば／たまの光は、そわざらん。／ひと、学びて、後にこそ、まことの徳は、あらわるれ……」二番の歌詞に「水はうつわにしたがいて、／そのさまさまに、なりぬなり。／人は交る友により、よきにあしきになりぬなり。……」とはよく言つたもんだ。

人は交る友により、よきに楽しく、かつうれしく、尚、激しく、狂おしく、利口になりぬなり。小夜子作。

追——コンサートは、人の入りが今一つではあつたが、みんなて笑つて、とても良いコンサートになった。その夜、私はひどくうれしく充実した気分であつた。誌上を借りて、出演してくれた人、来てくれた人、ありがとう!

料理がすべて

田川 律



〈今月の外食〉「丸八」(大井町) ロース・トンカツ／「店名忘却」(神保町)ブリ照焼、冷奴／「大陸」(新宿)ギョーザ、焼飯／「鬼女の栖」鯛の塩焼、肉味噌野菜巻、ソーメン、おにぎり／「傘屋」(渋谷)焼魚(キンメダイ)定食、芋の煮転がし／「ムロ」玉紅ギョーザ(ギョーザの中にニンニクの塊と一味唐辛子の粉末が入っているもの)、スペアリブの唐揚げ、鶏煮込みそば／「肥後ばっ天」(渋谷)たかな

飯、焼鳥／「陶玄房」(新宿)いかめし、鳥の唐揚げ／「中村屋」(渋谷)ブリ照焼、湯豆腐、ほうれん草のおしだし／「ベチカ」(新宿)ギョーザ入スープ、ビーフ・ストロガノフ／「Z A J I」(下北沢)しめじとエノキのサラダ、煮込みうどん、焼鳥ごはん／「福よし」(原宿)ロース・トンカツ／「漢陽苑」焼肉、サンチュ・サラダ／「陶玄房」(新宿)いかめし、ピザ、揚豆腐、鳥唐揚げ／「ぐ」(下北沢)ソバのサラダ、ガンモドキ、玄米。

〈今月の料理をめぐるニュース〉①神保町で焼魚定食を食べている時、親友のドリコが、三波春夫が「井音頭」をうたっていると話してくれた。語りの入った気味悪い音頭だとのこと。②二月二十三日付「朝日新聞」家庭欄で、料理教室をめぐる話題。この頃の若い人は「応用」がまったくきかないとのこと。ぼくなんか、応用だけみたいなのに。③三月十七日、ひさし振りに下

北沢の「ぐ」で皿洗いをした。他人からぼくに依頼があるのが、皿洗いと場内整理、というの、妙なものである。何年前、東京都内の知人のいるオフィスへ茶碗洗いにまわって、ナニガシかを貰おう、と冗談で考えた。そしたら、つい先日、旧友のお篠は、共稼ぎの若い夫婦の家の掃除のアルバイトをしていると聞いた。週一回で、毎回、レンジとか、窓とか、換気扇など、その都度、ひとつずつきれいにすると、とても喜ばれるのだそう。なんとなく、生活「を」忘れた夫婦、という気がしないでもない。でも、稼いでいる側は、そうなるのだろうか。

〈今月の自炊〉①ヘンタイ卵焼き。新宿のスナック「ふらて」で覚えた卵焼き。割って溶いた卵にしょう油と酒とタカノツメ(赤唐辛子)を刻んで入れる。この店では、その量に応じて、ヘンタイ1、ヘンタイ3、などと称し

ている。通常は、卵1コに赤唐辛子一本ぐらいが妥当かな。②湯豆腐。コブ、ブタ、白菜、ネギ、それに豆腐を入れ、

ポン酢で食べる。③レバーの唐揚げ。鶏の唐揚げと同じ要領でやって少し失敗。つまり、ニンニク、シヨウガをすりおろし、酒、しょう油、片栗粉でま

ぶし、それに今回はピリリとタカノツメを少々加えたが、レバーは袋状になっている、その中に血が入っているものだから、すこく油がハネ、手袋をしなくてはならなかった。でも味はともおいしかった。④チゲ鍋。これについては、前々号の本誌参照。⑤シイタケと鶏のしょう油いため。肉厚の生シイタケ、それもごく新しいものが、この月よく出廻っていたので、これを使い、

鶏と共に、刻みニンニクをいため、そこへこのふたつを加え、手早くまぜ、しょう油、酒を加えて出来上り。⑥レバーとコンニャクの煮付。といっても、汁気はほとんどなく、「いり煮」の感じ。

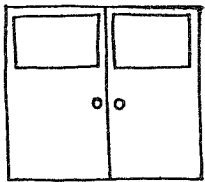
タカノツメを入れるのと、刻みニンニクを使うのがコツかな。

〈今月の失敗〉茶そばが残っていたのでゆでて、でもつけ汁がなかったので、ポン酢にしょう油をおろしてつけたら、なにやら奇妙な味だった。

〈今月のオマケ〉数年前ロンドンで暮っていた照明家の井上くんは、物価高に抵抗するべく、毎日、部屋のハ

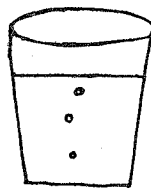
リの上に、食パンとハムを並べておき(冷蔵庫がなかったので)昼はこの両者を一枚ずつ重ねてサンドイッチにして食べていたそう。毎日食事をするのに、残り物が出るのは当然で、同じ物を何日も食べればいいものを、つい捨てたりすることもある。今月は、なぜか湯豆腐をまめに作ったので、その分雑炊を作ることが多かった。その点、パンというのは、数日ならたんに焼けばいいのでカンタンだといえるかも

しれない。ぼくの朝食の項は、ほとんどの日がパンになっている。そんな時には、ヘンタイ卵焼きでなく、「目玉焼」が多いが、最近同居人の大谷くんの意見で、これを作る時に、ギョーザを焼くみたいに、水を少し加えて、蓋をして焼いてみた。ふつくら焼き上るというのだがあまり変らなかつた。デザートは、イヨカンが多かった。無農薬の夏ミカンも、友人のウミに貰った。



ボクが先生をして いた高校

糸取アヤ



生徒会の役員をしていたA君と僕は友達だった。A君はツツパリの部類だったが、それでも普通科高校に来ていくくらいだからメチャコワイということはない。しかし、高校に来てからは、太目のズボンに白のベルト、眉毛も少し拂って、ツツパリレースのトップにおどり出ようとしていた。

一方、ボクの方は高校・大学紛争世代だ。およそ学校でやられていることの9割は無意味な儀式だ、と思いつつ

飽きしていて遊戯的な行動性、肉体的に飢えていたボクにはピッタリの仕事だった。だけど、悩みが二つあった。一つ……授業をどうするか、「授業に期待などするな！」とやっている本人は思っている、ボクが担当している授業の場が遊戯性に欠けるのはしんどい。「生徒によくわかる丁寧な授業」などではなく、次どこへ展開していくかわからないようなワクワクするようなのをやってみよう。ヤルゾ！ 若干見通しはある。二つ……生徒会役員の彼が、大学を中退して会社に勤めだしてから遊びが少なくなったことだ。彼は遊びと生活をきっちり分けていて、最終的には生活の方を選ぶというのだ。ボクは仕事も生活も遊びという方向をめぐらしている、彼からもらったパワーで生活を全面的におもろくしていくという「使命」を果たすつもりだ。サンキュー、A君！

次は、現在ボクが通っている進学校

も、ついふらふらと教師になってしまった部類だ。講義式の授業聞くより、自分が興味もつことを独学した方がスピードも速いし、身にもつくと思っている。従って、学校は皆でワイワイやっておもしろいのが一番、と認識しているのだが、いかんせん受けるのが楽しいの授業など皆無に近かった貧弱な学校体験からは、おもしろい授業が急にあみだせるわけがない。すると、どうなるか……進学校に通っていたボクのまわりにはいなくなった新しいパターンの高校生と関係を深め、いろいろ教えてもらおう、これが最大の楽しみになってしまった。

脱線したが、生徒会役員の彼はおもしろい男だったのだ。たとえば、女の子のひっかけ方↓最初はアホっぽい感じで接して相手の警戒心を取り、おもしろいことを言うてウケる。次いでまじめな話もし、かつ自分の属する男グループにちらつと触れさせて「男世界」

の女の子の話をしよう。彼女は「受験バック」になり果ててしまっている高校に登校する気をなくし、下町の歓楽街の暖かさにひかれ彷徨する中で、プロパチンカーの男性と出会った。抽象性の霧に包まれて生きた感性を喪失しつつあった彼女は、その男を通して生きた世界に出会え、生気を回復したようだ。今や彼女のパチンコの腕は相当なものであり、下町の店についても詳しい。着ているニューウェイヴチックなコートも古着屋で五百円で買ったそうだ。彼女は「下町への冒険」により自分のテイストを身につけ始めた。この二月に卒業した時に、「労校で何がおもしろかった？」と聞くと、「友達と深い所で会話が成立した時、それにエロス」と答えてくれた。ボクはその答えを気に入ってしまったのだが、よく考えるとそれはボクが教師を続けられている理由と同じだったのだ、フム。

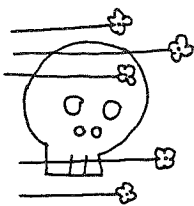
ボクらが高校生の頃、帝国主義高校

のすばらしさを見せる。最後に単車やデイスコなどで劇的な体験を演出し、自分と相手が一体になれるようにする。このパターンで、彼はたくさんさんの女の子をモノにした。

卒業後は車である。暴走して楽しむドライブテクニク、取り締まり警官に対する作戦等を身につけた彼の車に乗してもらってからは、元々素質に恵まれていたボクもバッチリ暴走運転ができるようになった。言っとくけど、集団でブイブイ走って鉄管パイプでしばきあうといった類の暴走じゃないよ。走りそのもののみのやつ。とにかく、連中と遊んでいる時、ビビることもあったけれど楽しかった。そうそう、もう一人夜明け前の日本海をスタートして始業前に学校へたどりつくというバイク野郎もいた。彼は学校へ着くと空気をふくらませ授業中ずつと寝ているのだ。

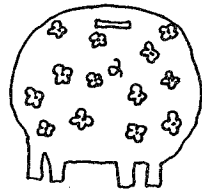
高校教師という職業は、知識に飽き

解体を唱える高校闘争が起こり、ボクのグループは、(1)成績の点数化とそれによる序列づけ、つまり成績評価なる愚劣な行為をやめること、(2)授業への出欠を自由にする、の二つが実現されれば、学校もマシンになるだろうと話し合っていた。その後1年間混乱が続き、ボクは授業をさぼる楽しさを覚え、友達と話し合ったりエロスに芽生えたりした。その頃の愛読書は、ライヒの「性と文化の革命」だった。現在、高校の管理体制は再び強化され、高校生は進学体制にのみこまれるか、或は「何となくクリスタル」風の商業文化にブランド漬けされている。それらに対し、ボクは多様かつ個性的な遊びを投入し、茶化していきたい。



たのしみがなく
なつた

高橋悠治



やっと終わった。三月十一日、日曜日の山谷玉姫公園で水牛楽団の（すくなくとも当分）最後の公演。さむくて楽器は鳴らず、マイクにもよくのらず。

三月三日と四日、ユーロスペースで水牛コンサート。水牛楽団は歌もなく、「チゴイネルワイゼン」などの器楽演奏。コンサートの大半は如月小春（とDOLL）におんぶする。三回公演でお客は二百人弱。やっていけない。途中でふりかえったのがいけない。

スクリアビンと同時代で、発狂してしまつたリトアニアの作曲家のピアノ曲が、くりかえしつかわれている。古めかしく、あたらしい音もつかっていないのに、ふしぎな音のつながり。こんな音楽をつくりたくても、できない。三月十四日 髪を切る。テクノカットやパーマなどためしてみたが、みんなだめだった。今度はすこし長目にして、前の白髪が目立つようにする。ほおがこけて、しわの間にはこりがたまるようにしなければおおいが、おもうようにいかない。年より若く見られてもいい気分にはたれなくなつた。生れながらの老人という幻想にむかつて訓練をはじめるときがきた。

三月十三日、六本木のストアデイズに「水牛通信」バックナンバー五十八冊をもっていく。

このごろ西武の店で「水牛通信」や水牛楽団のカセットが売れるようになった。いってみると、ハンス・アイストラ

た。幻想が消えてしまつたね。

三月二日夜、コニー・コリヤールと会う。クセナキスの曲をひくようにすめられて、もうできないことを説明しても、ぜんぜん通じない。夜中になつてパリのクセナキスからの電話にでたはずみで、ひきうけてしまう。

楽譜を押し入れから出して、ひきかたをかかんがえ、あたらしいやりかたをゆめにまで見た。ピアノでためしてみたが、八年間にいれかわつた細胞はもどつてこない。ぼけた記憶が鳴るだけ。といって、あたらしい視点もうまれてこない。

三月七日 ピアノをもらつてからはじめて調律することにして、あけてみたら弦が四本も切れていた。気がつかずに練習していたのです。

二月二十七日 俳優座で石井かほるさんの公演。ハルモニウム、ドイラ、バラフォンで音をつけるだけでなく、ステージで歩いたり、谷川俊太郎さん

ーもビクトル・ハラも富山妙子もならべて売っている。マイナーでいることがあたらしさの条件なのか。

それから太極拳教室にいく。もう一年半、週一回。三分の一は、しごととぶつかつて休んだから、なかなかすすまない。このごろは、太極拳の時間をよけて、しごとをとるようにできるだけしている。

朝おきて皿を洗うときと、太極拳に通うときだけが、何といつても自分の時間のような気がする。結果がその場々出るのがいい。

二月二十四日 鳥飼潮のシリーズ最終回。楽器をありつたけならべて、ソロ。はじめは、十分間も床でぞうきんがけをやっているの、いらいらした。最後はシンセのけたたましいシークエンスとともに、お客に花吹雪が散りかかり、かの女は電光衣装をまといつて点滅のあいさつを送りながら退場。アンコールにこたえて泣いたところまで、

の出題する擬態語を演じる。それが、「よろり」だったから、地てできたんだよ、という評価。

三月十五日 モーツァルト・サロンで「国歌をかんがえる会」のコンサート、昼夜二回公演。山住さんの話にあわせて、小学唱歌のサンブルを演奏する。歌はドレミ合唱団の北田かおる。白いセーラー服とほつぺたの赤丸がかわいかった。伴奏は足踏オルガンでなくて残念。三宅榛名の唱歌変奏曲をひいたが、作曲家のように元気にひけない。

明治唱歌のポキポキしたメロディーと貧弱だが強引な三和音の伴奏が新鮮だ。

今年は音楽だけやっていたいとおもつて、一年分の計画をはやくからたて、来年の計画までたてている。でも、ほかのこともやることになるだろう。集中できない。

「リトアニアへの旅の追憶」を見た。

花の総集編であつた。

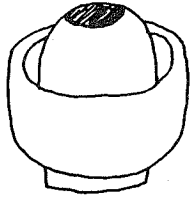
二月十六日 ヤマハで三宅榛名と二台ピアノの即興の練習。二月二十九日、おなじ。

今年はこれで行くことにして、五月二十九日の「曲り角」と題して森山威男をゲストにむかえたコンサートの練習をとりあえずやっているが、前途多難。できるつもりではじめる、たしかにそれだけのことはできる。だが、これではだめだ。予想できない結果にずれこんで、しかもそれに気がつかない位になりたいたい。

水牛楽団がコンサートを始めたとき、工藤さんがいったように、「しよぼくれて」あまりできないことをやりつづけていた頃がよかった。初心はずぐわすれてしまう。

生活ノート

平野太呂



げきの会「春をよぶ鳥」

アスカ、しゅうちようへん

ぼくのやくはしゅうちようへん
やだあー!! たいへんそうだあー!!
やりたくないなー!! とかせりふの
かずとかもくばっかりいっていた。
セリフが22もあるからやだなーなど
か、一人でぶつぶついっていた。

でも、やってしまおうとサッパリした
げき全体がうまくいったと思う。ちょ
っとまずかったなーと思うところは、

ぼくのしゅうちようへんは、さいごのばめん
ちよつとつかかちやつたから、そ
こがちよつとだめだった。あとさいし
よのばめん、もつとぶたいをひろく
あるきまわってえんぎをすればよかつ
たなーとおもいました。あとはぼくは
よかつたとおもいます。

アスカのけいすけは、ゆみやをもつ
ていろいろのせいやどうぶつをゆみで
おいはらおうとしているとき、かんき
やくの人にせなかをむけてやっていた
ぼくはおきやくさんのほうにむかつて
やればよかつたなあーとおもう。

あとかきわすれたけど、いちばんさ
いしよしゅうちよう長がでてくるときくつし
たをはいてうわばきをはいてでてつて
しまった。そこがすごくしっぱいで自
分でもあそこをばめんをもういっかい
やってみたい。

なぜか? まったくきんちようしな
くて自分のやろうとおもったことをち
やんとやれた。よかつた。いままでの

練習の中でもよくできたとおもう。
せいこうしてよかつた。 80点。

ほーとためいきをつきました。

小鳥へん

ことりは、とみなが、そらのがよか
った、ようこもあまりことははわか
らなかつたけど、えんぎがよかつた、か
おり、りかこはこえをおおきくして、
もつと大きくえんぎをしてほしい。

とみながのきやく本をみると、どう
いうところでどういうえんぎをするか
かきこんである、いいかんがえだなー
とおもった。

ことりはもうすこし、えんぎを大き
くしてほしいなあとおもう。点でい
え 80点ぐらい。

うさぎへん

うさぎは大きなこえをだしてほしい。
えんぎはきちんとかんがえてやってあ
る、こえは、すごくちいさくて、がん

ばってほしかった。なおこは、すこし
てれんてれんしてしまふから、てれな
いでびしつとやってほしかった。点で
いえば、70点ぐらい。

木のせいへん

木のせいへん、大きなこえといい、い
いえんぎといえすごくよかつたなーと
おもいました。ただちよつとなおみが
かちんかちんになっていたの、セリ
フがだしにくくなつたようだ。点にす
れば、99点ぐらい。

花のせいへん

花のせいへん、よかつたなーとおもう
人は、たみえでした、ふだんこえのち
いさいたみえだけ大きいこえを、せ
いしよしゅうちようへん、えんぎもよか
つた、ほんとうに花のせいへんがいつて
いるようだった。

まみもえんぎも、こえもよくでて
たとおもう、みやこは、こえがふにや

ふにやしていたけれど、えんぎがもう
一つだった。そのほかの人は、こえがち
いさくて、えんぎも、もう一つだった。
点でいえば、70点ぐらい。

プロンプター

プロンプターは、はじめてやるしご
とだ。本番では、あまりおしえてもら
つたのはなかつた。でも、ゲネプロの
ときはすごくやくだった。おもしろそ
うなしごとだなあとおもった。95点。
かくれて、ちよつとみえたらしくそ
こがしっぱい。

大道具小道具

ちよつとおくれぎみでいろいろなス
タッフややくの人にたつたつてもら
うというときもあつた。ちよつとしっぱ
いだった。でも本番にぜんぶできてよ
かつた。65点。

おんがくこうか

どうもうまくいかずにおわつてしま
つた。きかいがこわれていたらしく、
うんがついてなかつたなーとおもつた。
59点。

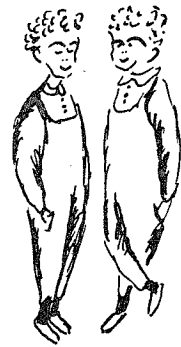
しょうめい

うまくいったとおもう。これもはじ
めてのしごとなのでだいじょうぶかな
ーとしんばいした。アスカがしんであ
るんにするのがなかなかうまいか
ず、そこがしっぱいとおもつた。あ
とはうまくいったとおもう。92点。

全体としてすごくよかつた。

おわり

あーつかれた



歯医者さんに通っている。

二台ある治療台のもう一つの方には、小さな女の子が母親につきそわれて坐っている。

「いくつ？」

「六才」と答えている。

永久歯が早く生えすぎてきて、乳歯がじやまになっているらしい。これで三本目ですと母親が説明している。

「二回ぬいたの」と女の子。

「最近は、こういうお子さんが多いです。どういうわけでしょうねえ」と先生。

横目で見ると、先生はキラリと光るペンチのようなものを持っている。あれで抜くのかしら、背中がすつとする。私は自分の時は、すっかり目をつぶっていて、治療の道具など絶対に見ない。

「だいじょうぶだからね」とやさしい声で先生はいう。

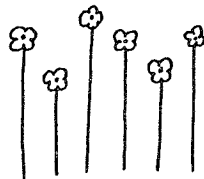
「慣れているから」と女の子。

「ああそう……」と先生は笑う。

慣れているから……だって。たった六年しか生きていないくせに。

子供に合っていない 学校

西山正啓



「いまの学校は、子供に合っていないとちやうか……」とは、二月に大阪で出会った若い教師の言葉である。

いま、このように子供たちの側に立って学校を批評出来る教師は少ないのではないだろうか。二月五日から神戸で開かれた日教組、全国教研に初めて参加してみて、私はつくづくそう思った。

何の因果かは知らないけれど、今年に入って早々、日教組教文局から全国

ゼッケンに依って子供たちを識別し、拒否する子供に対しては村八分にして応える「学校」。不良少年に敢然と立ち向かえるポパイみたいな教師を養成しようと、軍事教練にも似た研修を行なう「教育委員会」。数え上げればきりがない程の「管理」の実態を追った秀れたルポであり報道であった。ただ、気になった事はどの局も共通していたように、「子供と教師」の対立図式から一歩も踏み出せていなかったことである。管理を強制し支えているものはいったい何なのか？ 中曾根「教育臨調」路線と対決している日教組の教師たちは、その事態にどう対応しているのか？ 視聴者のひとりとして疑問は解けないままであった。しかし、前述した地域の状況を併せて考える時、「学校」の置かれた地域から孤立し密室化している状況だけは、はつきりと視てとれた。

初めて参加した全国教研を終えた現

教研に助言者として参加してみないかと誘いがかった。はて？ 何を助言出来るだろうかなどと、一応は考え込んでみたものの、いつもの図々しさと好奇心とで、即「行きたい」と返事をしてしまった。あとで解った事なのですが、本誌編集部の田川律さんとは同じ分科会の同じ小分科会まで一緒だったので。田川さん、ご苦勞様でした。ここ数年來、地域（田無市）の中で様々な運動——とは言っても「水俣」と「障害児・者」問題が主ですが——に関わっているが、「教師」と出会うことは滅多にない。特に「障害」児の就学問題の場合、教師の存在は重要だから盛んに呼びかけはするものの反応はまずない。かと言って、私たちが自由に入出入り出来る程に、いまの学校は開かれていない。「施設」と言う言葉があるが、端から見ていると学校は、まるで子供たちを収容する「施設」であるかのような。なぜ？ いったい何

在、私は「教師」の在り様そのものをまずは問題にしなければ、と考えている。と言うのは、四日間の分科会討議を通して鮮やかに印象づけられたのは、教育の専門家たる「過剰意識」から脱け出せないでいる「教師像」だったからである。分科会をむすぶにあたり、彼らは専門家として、「教師」はもともと地域に入ってゆこうと提案する。入らない以前に「教師」として地域に住むひとりの生活者ではないかと思うのだが、ここら辺りの意識なり発想そのものの中に、根本の問題があるように私には思えた。私事（生活）と切り離れたところで成立している「学校」である限り、「学校」は建前だけの場になり、本音（子供たちの建前に対する反乱）を覆い隠すことに依って悪循環を繰り返してゆくのだろう。子供たちは、毎年毎年九年間もそこに居続けるのである。

状況を好転させる、「決め手」はな

がそうさせているのか？

昨年暮、各テレビ局が「教育スペシャル」と題して、管理される子供たちの特集を組んだ。どこの学校も全てと言う訳ではないが、現在を象徴する光景がそこに映し出されていた。子供同士の私語を禁止するため、歌を休みなくうたわせ掃除することを強制する「学校」。昼休み時間には必ず、国旗と校旗を掲揚し、どこに居ようともその方向に向かって、君が代が流れている間、子供たちに頭を垂れさせる「学校」。公安の手配写真よろしく、女生徒たちの正面、横写真を撮って管理台帳を作り頭髪検査をする「学校」。ここでは、ひとり残らずオカッパ頭を強制され、天然パーマさえもが禁止される。そして、生徒一人ひとりの頭髪を顕微鏡を使って、真面目に検査をする「教師」がいるから話はややこしくなる。子供同士を管理する側とされる側に分け、又、それを管理する「教師」の実態。

い。しかし、教師自らが地域の人々に向かって声を出してゆかないと、「学校」の管理体制は打ち破れないだろうし、展望も容易には見出せないであろう。更に言えば、体制の言う反動的な教育改革に、ますます口実を与えるような気がしてならないのである。

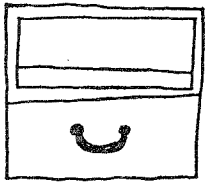
「教師」の皆さん、教育の専門家たる教師をやめて、そよ風のように街に生まれよう。そして、地域の人々と本音を語り合いましょう。

子供たちは、きっとその事を望んでいるのです。

いま、「学校・地域・子供たち」を取巻く状況の本音の部分に、私は映像で関わりたいと考えている。

ブタ草七変化

竹内晶子



昨年、瞬間芸というのが流行った。私を知っている中で一番ヒットだと思っていたのは、片耳を倒して「ギョウザ」というやつである。でも、先日荻窪の飲み屋でもっとすごいのを教わった。にっと笑ってほったにつきあがる左右の小山をOKの合図の時指でつくる丸にはめ込みながら「タコ焼き」。当然のことながらこれは、浅丘ルリ子やいしだあゆみにはできない。私のような豊満な顔面を持ちあわせた者にし

こでこれだ。下顎をゴリラのように突き出し、猫背のままが二股で大股歩きで進む。もし人に声でもかけられれようものなら、よだれをたらしながら「エへへ」と笑う。絶対安全。わざわざこんな変態に手を出す馬鹿もいないだろう。断わっておくが、これは暗い夜道だからできるのだ。しかし悲しいことにわざとこれを実行しているうちに、どうもが二股ドタドタ歩き、しまりのない顔がくせになってしまったようだ。実に、個性的というのには愉快だ!! (ここまできるとヤケジみて...) プリーツスカートにベレー帽なんて出で立ちで目元をサヤサヤさせて歩くと、魚の死んだような目をしたおじさんが、「君、知的な魅力があるね、すてきだあ、モデルやんない?」とくる。また赤や黄など原色5色を一度に身にまとい、ポッキーかじりかじり終電まぎわの東京駅地下道を踊り歩いていると、「帰

かできぬ芸当だ。うふふ。しかし、こで私はあえて、私独自在編み出した秘技を公開しようと思う。その1は、生まれつきのおでこの猿じわと眉間のしわを同時に寄せて「郵便局マーク」。その2は簡単、お鼻がそのまま「ちようちんブルマー」。今、私に残された課題は、口と目を使った芸のみだ。それができれば『瞬間芸顔中一気』が披露できる。もう、私は宴会の花形だ。

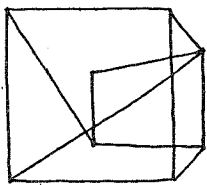
確かに、人間の「いや私の顔はおもしろい」かもしれない。しかし顔だけならば、健康的に美しい日、寝すぎてバツチリ腫れまぶたの日、疲れてやられて色っぽい日、食べすぎてむっちりむくんだ不細工な日等、様々なので、一概に評価し難いと私は信じている。しかし、ここに不動の事実がある。身体が大きい——これは実によく目立ち、決してかわいく見えないための必須条件ともいえる。最近まで自分はそれ程でもないと思っていた。だから、ちょ

んの? 泊まっていこ。」と暗いおじじの誘惑。ある時は、汚ないズボンに男もののジャケツで腫れまぶたに寝ぐせの髪とくりや、もう道でも電車の中でも誰もが「わっ! 見なけりやよかつた。」と言わんばかりにあわてて顔をそらす。またオーパーオールにスニーカーとなれば、酔っ払いのおじさんと仲良くなる確率が高い。はじめは酔いに任せておしりを触わったり寄りかかったりしてくるが、「おじさん、寝ちゃだめよ、どうしたのお?」と親しみをこめて反応すると、もぎたてのワラビをくれて、おしまいには「変なおっさんに気をつけんだよ。」と言いながら手をふって行っちゃった。ただ、スーツなんか着込みますと、ふくらはぎの筋肉(人はこれを子持ちシシヤモと呼ぶ)と、オツムの足りなさがちよつと気になって、今一決まらない。この辺が私のかわいいところと言えるかも

つとバカっぽくふるまえば、幼児みたにかわいがられるかな♡と思うと、本当に足りない子に見えるといやがられるし、今稽古中のオババの役も、私は研ナオコがよくやるおばあちゃんの感じでやっているつもりなのだが、劇団員には、縁の下から這い出してくるバケモノだと笑われる。世の中まがっているんではないかい!?と叫びたい日もあった。こんな私を生んだ母を恨んだ日もあった。しかし成長期に餓鬼の子みたいに食欲旺盛だったのは、まぎれもなくこの私自身だ。そう、何も悲観することはなない。顔だっておもしろい。まして身体で楽しめない訳がない。

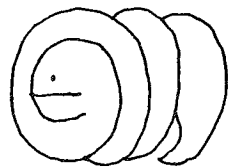
そこで、唐突な展開ではあるが、私は自分にふさわしい痴漢防止対策を考えてみた。私は何をかくそう夜道を一人で歩くのは恐いので、よく傘やバツクをふりまわしながら歩くことはしていたが、どことなく空しいものだ。そ

しれない。うふふ。
まあ、きれいとかカッコイイとかいうのは他の人に任せるとして、私は立派な日本の母となるべく、過激な変身をあれこれ楽しみながら、しこでも踏んでいようかしら。それにしても、編み物や料理がおもしろい今日この頃。ああ、ゆかしいこと。



六十四歳になったら

無名蘭士



月日。タクシーに乗ったら、白髪豊かな運転手。「お幾つ？」との問いに「六十四」という。「わたしなんか、四十になったら、身体中があちこちおかしくなったよ」と話すと、「そうですね。四十がひとつの節目で、そこで歯や目が悪くなり、でも、それからしばらく安定します。その次の節目は六十で、またガクッと齡をとった、という気になりますよ」とのこと。
たしかに四十になった時、歯も目も

かかってしまうものだという。ただし可能性を少しでも減らすため、の「予防」は医師たちは気をつけているということだ。食事に関していえば、一日に五十種類の違うものを食べるようにすれば、その分危険率は分散された、かかる率は少くなる、という。
月日。L・A・モースの「オールド・デイト」を読む。七十八歳のブライベイト・アイ（私立探偵）を主人公にしたシリーズ第一作。七十八歳という年齢に訪れる肉体の衰えや、なぜそのジジイに事件が依頼されるのか、ということがなかなか良く書いていて面白い。

月日。葉山のはずれの友人宅を訪ねる。年老いたボメラニアンが六匹（だったと思う）もいた。老犬、というのなかなかすごい。一匹などは、歯が全部抜け、口がきちんとしまらないのでたえず、よだれを流し、歩くのもヨタ

急速におとろえた、という記憶がある。大学の同級生たちも、いちように老眼になった。また、医師をしている友人たちにいわせると、同級生たちが見てもらいにきて、見甲斐（？）があるそう。つまり、あちこちに老化現象があらわれているからだ。

月日。最初に老いによる死を意識したのはいつだったか考えてみる。もうずいぶん前だ。当方が四十の頃だったろうか？ 新聞の死亡欄にいつも目が行き、享年が七十六歳と見ると、「平均年齢分は生きたか」と思い、五十代だと「わたしも、あと十年しかないのか」と悩んだりしたものだ。

月日。一年ほど前、自転車に乗っていて、カーブを曲りきれず、歩道でガードレールにぶつかったら、低いガードレールだったので、それを乗り越えて車道へすってんころりと転んだ。ごていねいにも自転車も道連れにしてしまった。幸い、車が来なかったので大

ヨタしている。板張りの床にはすべて毛布が敷いてある。これらの犬が歩く時滑って転ぶからだという。また、若い犬がいけないことについて、その家の夫人は「わたしが先に死んでしまったら、犬が可哀そうだから、まずこの犬たちの死をみると、それから死ぬつもり」だからと話してくれた。もっとも夫人はまだ五十代半ばではある。

月日。北海道の友人の家が焼けて、三十数匹の猫が焼死したという。古い家で、寒いため、ずっとストーブをつけて放しにしていたところ、猫たちが便所用の新聞紙を散らかし、それにストーブの火が燃え移ったのだという。二階で寝ていた友人は、積った雪の上に飛び降りて無事だったというが、焼死した猫たちが哀れである。

月日。自分が死に近づくと、死後の名声とか、ともかく本人が死んだあとに本人についてなされるさまざまな評価や、そのほかのあらゆることが、

事にいたらなかったが、しばらく起きあがれず坐り込んでいた。やっと立ち上って、そのまま自宅まで乗って帰ったが、ビテイ骨が一カ月ほど痛かった。骨折でもしていたら、なかなか直らなかつたに違いない。

月日。四十歳になる前に殺されたイギリスの歌手は、二十代に「六十四歳になったら」とうたい、死の直前には「ぼくと一緒に齡をとろう」とうたっていた。当然のことながら、「六十四歳——」の方が楽天的で、「ぼくと一緒に——」の方が悲観的である。しかしそれは当然のことなのだろうか。齡をとる方が楽天的になる、ということはないのだろうか。

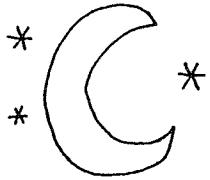
月日。同級生の医師と話す。専門は肝臓の、それもガンだという。かれの意見では、ガンはいまだに交通事故のようなもので、どんなに用心をして、タバコをやめ、焼け焦げをさけ、といった生活をしていても、かかる時には

なんて無意味なのかとつくづく思う。そもそも葬式すら、本人はまったく関与できないのだ。まして、死後に業績が評価されても、まさに痛くもかゆくもない。とすれば、日頃わたしたちが先人についてしている評価についても、ずいぶんこっけいなお門違いのものもあるだろう。けれども、愛する人が死んだりすれば、それを惜しむ気持、というのには自然に湧くものだろう。生と死の垣根、はどこでどうつながるのだろう。

月日。一カ月あまり、老いや、死について考えてばかりいたら、ほんとうの齡より老いてしまった気になった。それでも、後悔先に立たずや、覆水盆にかえらず、よりも、老いを若さに戻せない、ということの方が重味を持って思えるのは、当方が老年になったせいか。

ぼくが作った本

平野甲賀



二月の十一日に仕事場を引越したので十一日以後にできあがった本やすでに手ばなれになった仕事から記録しておきたい。

●わたしの日本音楽史、林光、晶文社犀の本シリーズ、イラストレーションは柳生弦一郎、本文中にも数点イラストが入っている。その中の一点をカバーに使用、引越祝いにと、思いっきり派手に色指定したつもりだけど、やはりアミかけ合せの色は沈み加減になる、

クスン、大石俊一訳、どういうデザインにするか編集者たちよつともめた、結局タイポグラフィで落着いた、緑色に白ヌキ文字、緑色は売れないというジンクスがあるが、ちよつと気にしている。タイポグラフィは今後発展させるぞ。晶文社の本じやないみたいという反響。●オーウェル・小説コレクション、葉蘭をそよがせよ、高山誠太郎訳、晶文社、タイトルを貼りかえ、色を二色選ぶだけ。●深呼吸の必要、長田弘、晶文社、この本は全面的に長田氏の好みでつらぬかれた、大橋歩のイラストと書き文字をレイアウト版下制作。●夢を食いつづけた男・おやじ徹誠一代記、植木等、朝日新聞社、タイトル書き文字で、できるだけ簡潔にという注文、このスタイルは今や手の切り型日系人像を突きぬける、マコ・イワマツ、越智道雄訳、日本翻訳家養成センター、威勢のいい副題のこの本

だけでき上った本を見て中村さん(晶文社社長)が力なく笑ったそうだから多少効果ありとするか。一ヶ所指定もれあり。●中年に何ができるか不合格編、金子勝昭、晶文社、犀の本、安西水丸のイラストレーション、不合格編の文字は編集部の人が印章屋にたのんで作った判子。中年なんていやらしいタイトルだと思ったが、書店の注文が意外と多いので、中村さんも「中年路線もあるネ」と言ったとか。●額の中の街、岩瀬成子、理論社、少年向けの大長編シリーズだが、この本だけは大人っぽい仕上げにしたいということで、イラストレーションに柳生まち子の水彩画を使い、カバーはまるで女流文芸作品ではあるまいかという顔つきになった。カバーの絵を表紙では二色分解で刷った、思わぬできてこの手を今後どこぞの仕事でまた使いたいと思った。

●使者たち、ヘンリー・ジェイムズ作品集4、工藤好美・青木次生訳、国書

知る人ぞ知るあのマコ(古くは「砲艦サンパブロ」新しくは「バトルクリーク・ブロー」でジャッキー・チェンの叔父さん役、八島太郎の息子)の自伝なぜ今までこの人の本が出なかつたのか不思議に思っていた。ゲラの書き出しはなかなか快調のようです。●ベンヤミンの肖像、G・シヨールム他、好村富士彦他訳、西田書店、著者訳者にビッグネームがそろっているので表に出してほしいと言う編集者、タイポグラフィだね。写植文字に於けるタイポグラフィとは何か、と思わず力んでしまふ。あとがきからハンナ・アーレントのことばをカバーに引用した。肖像として出色のできと思うのでここに全文を紹介しようと思ったが、はや紙幅もつきかけた、本屋さんで立読みしてください。●免田栄獄中記、青地晨解説、社会思想社、以前、鎌田慧さんの「死刑台からの生還」をやっているの

で行会、この本はすでにデザインがまわっているのでは自動的に版下を作るだけだが、構成要素が少ないから刷色とか文字面などたいへん気を使う。毎回微妙に違いがでる。●大坂城、天下一の名城、宮上茂隆、イラストレーション穂積和夫、草思社、日本人はどのように建造物をつくってきたか、好評のシリーズ、これまたフォーマットが決まっているから作業は楽だが、突然かえてしまいたい欲望にかられる、今回で前期全五巻完結なので、書店用の看板や新聞広告のデザイン作業もありこれはひと仕事、つかれる。●父からの贈りもの、長岡輝子、草思社、女優であり演出家でもある長岡さんの半生記、「おしん」の加賀屋の大奥様役で評判の云々とは帯のコピーであるがこれはちよつとつらい。イラストレーション堀内誠一、立派すぎて使いにくかった。●コミュニティ・イングリッシュのある町の生活、ブライアン・ジャ

という注文。免田栄と獄中記を横組みにして行間字間もベタにすると田中角栄なんて読めちやったりして、これは関係ないけど……。●文庫、雑誌などベストセラーの文庫化がさかんでそんなに売れるかなと思いでしょ。●これが売れるんだって、売れなかつた本の文庫化は売れません、あたりまえでしょ。思想の科学四月号、世界から冬号、小林信彦の文庫四点、集英社と新潮社から、またもや「コスモス」、朝日文庫、新潮社トンポの本「ピカソ美術館めぐり」、「大和路散歩ベスト8」。サンリオSF文庫「天のろくろ」ル・グイン、「世界Aの報告書」オールデイス、CBSソニー出版「片山敬済の戦い・オランダG P ラップ」これはオートレイサーの本、まだあつた●愛のイェントル、アイザック・B・シンガー邦高忠二訳、バーブラ・ストライザンで映画化決定というわけです。晶文社……もうたくさんだ(三月二十六日)

わるいくせ



八巻美恵

二月十五日。ネツがてた。カゼかともおもったが他の症状一切なし。パブロンをのんでうつらうつらし、汗をかいたら細胞があたりしくなつたみたい。二月十六日。むかし弱小出版社でいっしょにはたらいっていた女の子(當時は)から手紙がきた。あなたは長らくの少女病ではありませんかでしょうか。だって。

二月二十日。けさ起きたら、年をとつたなあという感じにおそわれた、と

だって。だからゆて明なんか好物なんだって。ここまでくると食べものもすききらいの域をこえているなあといそかに思った。ただ楚々としているだけじゃない、ヤマイはフカイのね。同病ではないが握手でもしたいかんじだ。わたしの好きな吉田秋生を彼女も好きだというし。

三月九日。千駄ヶ谷区民会館でタイの映画「プラチャヤーチョンノーク」(周辺の人びとという日本題だったかな)を観る。都会で学業をおえた青年が故郷へ帰り、稲作を中心とした村づくりをするはなしと、同じ村からバンコクへ出かせぎにでた農民のはなしが並行する、よくある内容だ。さいごにはこれもよくあるように青年は殺され、農民たちは投獄される。すると弁護士トンバイさんが、トンバイという名の弁護士役で登場して、新聞記者の質問にこたえる。これはよくあるごくふつうのケースです。なにも特殊なこと

悠治がいう。

二月二十二日。シアターアプルでのんびりと「家族ゲーム」を観ているあいだに、わたしと家族を構成している最年少者が、課外授業のスケートで転倒し頭を打って近くの救急病院にはこばれていた。種々の検査も異常なく、本人にころんだありさまを上演させてみても、もろに打つたようでもない。が、頭なので、念のため一晩だけ入院となる。こんな患者でも退院のときは、おめでとう、もう帰ってくるなよ、と同室のおじさんたちから祝福されるのだった。

二月二十八日。小夜子から電話。このひと月あまり、体がむくむ、酒をのむ気にならん、ひたすらねむい、朝おきられない、腰がいたいと不調をうったえていた彼女は、膠原病であることを見期待していたらしいが、東大病院で検査の結果子宮筋腫であることが判明した。良性か悪性か、摘出手術をする

はありません。すぐに事実関係があきらかにされるでしょう。と。

アジアのこどもに日本の映画をとどける会が主催なのでその報告もあった。こういう集会は、PETAのだけれがいつかいつかいたように、日本人です、たすけてください、とさげんでいるのだ、知らず知らず。主催者のひとり有光健氏は、はしかだそうで大きなマスクをかけていた。あんなおとななのに信じられない。

三月十二日。アメリカにいる藤本和子さんから手紙がとどいたので、ルン気分て封をあけると、エツ、子宮筋腫の手術したと書いてある。和子さん、アナタモカ。わたしを中心にしてかぞえると、ここ二年ほどの間に、この病気の人は五人になった。子宮筋腫の素というか胞子のようなものをばらまいているんじゃないかという妄想に一瞬おそわれたが、そこまで自分中心にかんがえるのも、病気というもの。

かどうかは二週間後にわかる。いつもの高らかなわらい声も、きょうはいまいち。夜おそくなつてゆう子からも電話。彼女も子宮筋腫をもっている。わかつたのはもう一年以上も前のことだ。医者にメロン大です。といわれ、メロンにいったってマスクメロンもあればプリンスメロンもある、どのメロンのさ、といおうとしたが、ことばよりも涙のほうに先に出してしまったのは残念なことだった。いまはおちついた共存関係にあるようで、相手が大きくなつたり小さくなつたりするのがわかるらしい。

三月三日。ユーロスぺースで「高塔の歌」コンサートのと傘屋でひな祭りうちあげ。如月小春さんのことになりすわる。このひとがパクパクものを食べるのを見たことがない。きいてみると、すききらいが多いんだそう。スパイスのきいたものはダメ、つい最近までねぎもコシヨもダメだったん

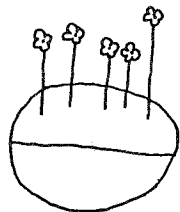
ともあれ藤本さんの手術はとうにおわつていて、元気になりつつあるのだ。

よかつたよかつた。小夜子のほうは摘出の必要なし、当分様子を見ろという結果がでたという。よかつたよかつた。ありがとういのち、とわたしはおもい、ふたりのために、もらいもののロシアワインをあけた。ワインはちよつと水っぽくて、ロシアみたいな味がした。

三月十三日。魔の水牛通信送準備の日。封筒にハンを押し、請求書かいて雑誌といっしょに封筒にいれる、封をして郵便番号によって仕分ける、などの作業を「鬼才」とよばれる人とふたりつきりやりとげるとる想像してほしい。なかなか努力のいることだ。今月はめづらしくなんのいざごもなく完了した!

下手の横吹き笛日記

西沢幸彦



二月十五日 一時より溜池の東芝スタジオ。カラオケだと思ふ。演歌のリズムを取り終ったあとにメロディーを録音する。酔客が歌いやすいように、ガイドとしていれておくのでしょう。七時よりコロムビアスタジオ。子供のためのマンガの主題歌を録音する。

二月十六日 十二時より東京スタジオ。昨日の続き、また演歌だ演歌だ。六時より九時まで、十八日のコンサートのリハーサルを池袋で行う。

おたまじやくして真黒。きょうはついていない。気をつけて帰ろう。夜六時より武蔵野音楽院で練習。プーランクのピアノ六重奏。

二月二十五日 一時よりコロムビアスタジオ。テレビのテーマと同時にレコードにもするらしい。夜五時より九時まで三月一日のコンサートのためのリハーサル。

二月二十八日。二日間家においてコンサートのための練習をした。きょうは一時よりコロムビアスタジオで演歌のレコーディング。演歌というのは何回やってもうまく乗れない。あの不思議な乗りは何だろう。四時半より宮長スタジオで水牛のコンサートのためのリハーサル。はじめて如月小春さんの楽団を見る(聞く)。おもしろい。

二月二十九日 十時より明日のリハーサル。朝というのは身体全体が寝ていて具合がわるい。

三月一日 アンサンブルプラクティ

二月十七日 昼近くまで寝ていた。朝食後(昼食かな)、明日のための練習する。久しぶりに練習すると、目が変になる。動かない指を一所懸命に動かそうとするためか、肩がこる。なかなか思うようにできない。

二月十八日 昼の二時から横浜の東京工業大学の留学生会館でコンサート。木管のクインテットでハイドン、イベル、ミヨー他の演奏。久しぶりでこんなことをやった。出来は問わないことにする。おかげで十数年やれている。二月十九日 日曜日にもかかわらず三時より早稲田のアバコスタジオで、どっかの町の「町歌」を録音。和太鼓が入って「何とか音頭」

二月二十日 十一時よりNHKで子供番組のテーマを録音。三時より悠治さんの家で水牛のリハーサル。六時半から木管クインテットの練習。先日本番を一回行っているのでもまああかな。二月二十一日。十二時よりNHKで

カという現代音楽の演奏団体があつて私はそのメンバーなのです。きょうは駒場エミナースでコンサート。プーランクのピアノ六重奏曲、イダルのハ・ウ・ラ、パッカニーニの室内楽曲、平石博一さんの迦陵頻伽の四曲。お客さんは七、八十人かな、今回は特に少ない。でもステージの上よりは多かったです。例によって出来は問わない。

三月三日、四日。渋谷のユーロスベースで水牛楽団のコンサート。二日で三ステージ。水牛名曲選と如月小春さんの作の高い塔の歌を演奏する。演奏といても、高い塔の方はほとんどが対話の形式になっており、メンバーそれぞれがアドリブもいれ、けっこう楽しんでやらせていただきました。

三月五日 三時、キャニオンスタジオ。三月六日 二時、サウンドインスタジオ。三時半より七時まで、ビクタースタジオでダビング。ディレクターが大変にうるさく、何度もやり直し。

林光さんの劇伴をとる。久しぶりで歌を入れに来た加藤登紀子さんに会う。相変らず元気なんだ。感心する。

二月二十二日 七時よりビクタースタジオで、だれかの(このへんが不思議なのだが、ほとんどの場合だれのかわからない)LPの曲録音。リコーダーで吹いたが、むつかしい調子なので指がこならかって、ほどけなくなりそうだった。

二月二十三日 二時より赤坂バックページスタジオでカラオケ用のテープ録音。なんだか昔のフオークソングのよう。

二月二十四日 朝、子供と公園に行つて、帰ってから昼のニュースなど見て、さて二時からの仕事へ行こうと思つて、さて二時から、一時からと書いてある。ついでに時計を見たら一時五分過ぎだった。急いでキングスタジオまで行つたが、やっぱり遅刻した。ハアハアいつてスタジオに入ったら、譜面は

三月八日 六時より池袋で木管クインテットの練習。フルートをかれこれ二十年以上も吹いているがなかなかうまく吹けない。要するに下手なんだから。納得する。

三月十二日 朝十時より池辺さんの劇場音楽をアバコスタジオで録音。一時より東京音大で松平さんの曲合わせる。四時半より池袋で木管クインテットのリハーサル。

三月十三日 第一生命ホールで現代の音楽展。松平さんの曲を演奏する。

この手のものはお客さんが少ないなあ。三月十四日 青山のカワイサロンで木管クインテットの本番。ジュータンが敷きつめてあつて泣きたくなるほど残響がない。九時半からNHKで武満さん作曲の劇伴で、サンバのテーマをケーナで吹く。十一時終了。きょうは疲れた。家へ帰ると明日のレコーディングがキャンセルになっていた。よし明日はいぎたなく一日中寝てやるか。

友だちと呑めば本になる



津野海太郎

十五年か二十年まえ、東中野の喫茶店で熱心に話しあっている三人の老人のすがたを見かけた。相手の口もとに補聴器のマイクをつきつけて「ケッケツケ」と笑ったりする。まるで寒山拾得図だ。金子光晴、秋山清、岡本潤の三人だった。この人たちは、たぶん大正時代からこうやっていたのだろうなと、なにかボウボウたる気分になったことをおぼえている。

油ですすけた新宿の台湾料理屋で高

いんじやないかな、ザラっぼくで夢があつて。石山さんの作戦は具体的になればなるほど夢になるんだね。ウッフッフ、そうですか。工房の夢ね。フフンでも、アレ、やっぱりすごかったですね、ガウデイ、やっぱりものすごいですよ。シャクにさわるから、だれにも話さないようにしてるんですけどね。しゃべってるじゃないですか。ウッフッフ、そうですか。でも、ものすごいいんですよ、アレは。

ひさしぶりにイリノイのデイヴィッド・グッドマンから手紙がきた。予定どおり、こしはヒロシマ文学とホロコースト文学をてらしあわせながら授業をやっているらしい。

「考えれば考えるほどヒロシマとホロコーストは同じ類のものではないと思うようになってくるけれども」とか、それはいう。だけど、どちらのばあいも、それぞれの民族に属する個人の作家た

橋悠治、鎌田慧の両氏と会って、あのときの三人の老人のすがたを思い出した。ここにも寒山拾得と豊干さんの境涯にちかづきつつある三人の男がいる。とすれば、あつげにとられてこれらのようにすをうかがっている青年のすがただって、この店のどこかに……と、あたりを見まわすまでもなく、すぐ眼のまえに戸田れい子さんがすわっていた。あたりまえじゃないか。きょうは彼女が夕張でとりためた写真を本にしよう、その相談のためにここにあつまっているのだから。

めずらしくも戸田さんはサカズキを手にしやうとしない。三人の男たちが、これまたないことに人生的なふんいきで呑みつづける。こんどの写真集のかたちがチラッと見えかけた。それを忘れてしまわないようにと、さらにはえんえんと呑む。

ヨーロッパ建築を見てまわるツアー

ちが、それぞれの大火災、そのおびただしい死者たちと言語によってとりくむさい、どうしてもそれぞれの「文化的資源」を利用せざるをえなかったという共通点があり、同時にそれは、それぞれの「文化的資源」を変えながら使っていくということにもなるわけ、そこに興味ぶかい問題がいくつもでてくる。「当然みたいなことですが、教え方としては仲々おもしろく、効果もありそうな気がします」とか。

かれのところにも日本からきた留学生たちがいて、教室で別役実の『象』や井伏鱒二の『黒い雨』にふれると、そんな話をしてはアメリカ人にわるいというのだそうだ。そういう諸君を相手どつての授業でもあるわけで、したがって日本で出版しても「仲々おもしろく、効果もありそうです」と小生は確信しております。ご健闘を、な。

手紙のおわりに「ところで和子の本

講師として、ただで三週間の旅をしてきた石山修武さんと会う。ようやくかれの本のゲラがではじめた。それをもつて編集部で島崎勉がくる。新宿の地下ピア・ホール。本をつくるために呑むのか、呑むために本をつくるのか。もうひとつ。本をつくったから友だちになつたのか、友だちだから本をつくりたくなるのか。そうねえ。私のばあいは、どちらも後者、つまり友だちと酒を呑みたいから本をつくっているのだからね。出版の私物化だね。

いま私たちがまともな家をつくりたいと思うなら、建築の生産と流通のしくみを具体的にかえていかなければならない。それは可能なのだとあえていってしまふのが石山さんである。その戦略と作戦を建築専門書としてではなくまとめてみたいと思った。

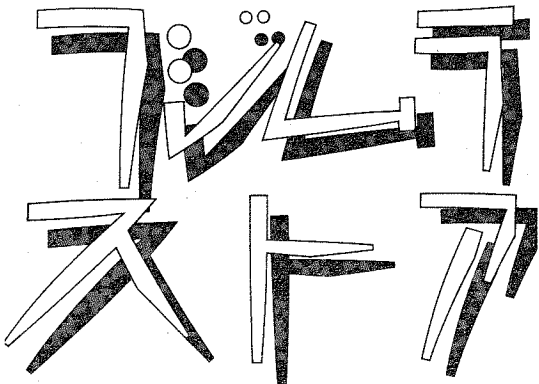
ええとさ、秋葉原感覚で住宅を考える、タイトル、これでいいんじゃないですか。ウッフッフ、そうですか。い

のゲラはどうなってますか？」とかきそえてあつた。去年、この雑誌にのせた藤本和子さんの文章を中心にちいさな本をつくっている。そのゲラが印刷屋のつこうでおくれてしまった。という連絡をなまけたので彼女が心配しているということ。

いそいで担当の村上さんに電話してもらった。ついでに私もでる。おう、元気がよ？ 彼女はこしのはじめ、からだをこわしてしばらく入院していたのだ。うん、いちんちの半分はまだ疲れるけどね、あとの半分は元気。デイヴィッドがでて、五月のすえにそっちにいくよ、いっしょに韓国にいこうよと、こちらはいちんちぜんぶ元気がいいといったようす。六月いっぱい東京に滞在する。そのあいだには彼女の本もできあがるだろう。いままで自分の本がでたとき日本にいたことはいちどもないのだそうだ。よおし、せいだいに出版記念会をやるぞ。

編集後記

さて、「大改革」第一号は、どうですか？
この号の実務のほとんどは八巻さんが手伝
つてくれた。ぼくはといえば、京都・大阪・名
古屋をうろろろしていた。四月二日の正午、
うちでテレビのニュースを見ていたら、黒人
のソウル・シンガー、マーヴィン・ゲイが親
父と喧嘩して、ピストルで撃たれて死んだと
いう。四十五歳になる前日とのこと。数年前
に離婚で、身の廻りのものから、印税までを
慰謝料で失ったという歌を作った一風変わった
歌手だけど、もはや失うものが何もなくなくな
ってしまったわけだ。同じ日の新聞に八三年一
年間の自殺が二万五千人を越えたところ。特
に四、五十代の自殺が増えているそうだ。ぼ
くと同世代ではないか。ぼくなにか、十代に
二度も自殺しようか、と思っただけで、そ
のためか「免役」になってしまっただけ、そ
はそんな気にならない。けれども、十代の時
よりも「死」がとて近づくにきている、とい
う気は強くする。不老長寿、や、不死、につ
いて昔から人々が、あくせくしてきた気がわ
からないでもない年齢になったわけだ。



水牛楽団十矢川澄子十如月小春
定価二三〇〇円(送料サービス)
夜這いの曲 しずくの曲 祖母
のうた 最後のノート だるま
さん千字文 ワルシャワ労働歌
花巻農学校精神歌 ポクハン
ンケイスル 都市 ★編集部あ
て郵便振替で申し込んで下さい

*予約購読の申し込みと送金は郵便振替を利
用して下さい。

口座番号 水牛編集委員会

口座番号、東京四一九一七九二

購読料、一年分三〇〇〇円(送料共)

半年分一八〇〇円です。

*住所、氏名、電話番号、何号からというこ
とを明記して下さい。

*本誌は次の書店にあります。

模索舎(新宿) ☎三五二一三五七

ブックイン(阿佐谷) ☎三三〇一七八九七

信愛書店(西荻窪) ☎三三三二四九六一

アール・ヴィヴァン(西武池袋12F)

☎九八一〇一一一内線二九五六

名古屋ウニタ書店 ☎七三二一一三八〇

ワンラブブックス(下北沢)

☎四二一一八三〇二

水牛通信 第六巻第四号

一九八四年四月十日

定価 二〇〇円

発行人 堀田正彦

発行所 水牛編集委員会

〒154東京都世田谷区新町2-15-13

八巻方

電話〇三(四二五) 九六五八

振替口座東京四一九一七九二

印刷所 (株)トライプリントショップ